



街と映画館

FM沖縄アナウンサー 放送制作部次長
安谷屋 眞理子



長年、日曜夜のラジオで映画番組を担当しています。県内の上映作品を紹介し、映画ファンの皆さんが寄せて下さる映画の感想を読むスタイルで、私自身も欠かさず新作を観るようにしています。

沖縄も以前は小さな映画館が各地にたくさんあったそうですが、今は多数のスクリーンを持つシネコンが人気を集めています。年末には、現在の北谷町と那覇新都心に続き、南風原町に大きなシネコンが登場することを楽しみにしています。

そんな中、今年春に昔ながらの「街の映画館」が時代の波に押されて閉館しました。寂しい思いをしていましたら、閉館から間もない七月、同じ建物でまさに再生の「桜坂劇場」が登場しました。映画館への想いだけでは到底できない新会社の立ち上げを、映画やイベントに関するプロフェッショナルな若い面々が集結し実現させた

ことは、頼もしく嬉しい出来事でした。昨今は全国的に、かつて栄えた街の変遷や消えていく「街の映画館」の話を聞

きます。沖縄も例に違わず、街は生き物なんだとつくづく実感したのがこの十年ほどの国際通りです。かつては一番の目ぬき通りで歩くだけでわくわくした通りが、今のようにな「お土産品店通り」になるとはまったく想像していませんでした。



国際通りからは「平和通り」や「むつみ橋通り」など、店が隙間なく並ぶ通りに入ってゆけ、さらにその通りはたくさんさんの裏通りにつながり、全体が市場になっています。通り抜けながら買い物するというスタイルで、地元の買い物客はずいぶん

減ったものの、今も観光客を始め多くの人々が行き交う場所です。

私は、映画番組を担当するようになってからは週末は各映画館をハシゴをする習慣です。以前はこのあたりに映画館が六館あり、次の映画を観るために国際通りや裏通りを人混みを縫ってせせせと歩くことが映画とセットになっていたのを楽しみました。

老舗映画館「桜坂琉映」は、市場エリアに抜ける桜坂通りにありましたが、このあたりは本土復帰の少し前までは那覇で一番の飲み屋街として名を馳せた場所です。この桜坂に、新生「桜坂劇場」は登場しました。

オープン以来さまざまな年代の映画ファンを念頭に、往年の日本映画名作シリーズやちよつとマニアックな作品、誰でも楽しめるハリウッド映画と幅広い作品選びで、夏休みの一ヶ月は「世界こども映画祭」という楽しい企画をしていました。ライブや託児日開設の実施も新鮮です。

閉館で寂しい思いをした後だけに、ガラス越しに人が集っている様子を見るのは心なみです。チケットを買ったり、チラシを読ん

だり、シヨップに佇んだり、上映時間になったのかホール入り口に向かう人が見えます。のんびりカフェで時間をつぶしている人も心地よさそうです。通りを若い人が、お年寄りが、歩いていきます。付近のバー街も、少し前から若い人に人気の穴場ができたようす。桜坂を下って平和通りに入ると、昔からの店があり、いつの間にかできたのか地元の若い人向けの店もあります。

街から次第に地元の人が減って寂しい年月が続きましたが、今度は徐々に人が集まってくるというかな、と思います。「なはまち」らしい昔からの魅力を大事に、超高齢化社会も視野に入れた優しい街に。休み休み歩けるのんびりした街に。さまざまな文化を楽しめるイキイキした街に。若者もお年寄りも集う街に。「桜坂劇場」はその拠点の一つになってくれるだろうという予感と期待でいっぱいです。

新しい街も古い街も、シネコンも街の映画館も、それぞれに榮えていろいろな楽しみを見つけれれる那覇の街を作っていけたらいいな、と願っています。